

藤原宮跡周辺を歩く

畝傍御陵前駅周辺

畝傍御陵前駅

1 本薬師寺跡【特別史跡】

2 藤原京朱雀大路跡

3 奈文研藤原宮跡資料室

4 藤原京大極殿跡

5 橿原市藤原京資料室

6 藤原京西面大垣南門跡

畝傍御陵前駅

1 本薬師寺跡【特別史跡】



奈良市西の京にある薬師寺の前身にあたる寺です。天武天皇が後の持統天皇である皇后の病氣平癒のため祈願して、天武9年(680年)に薬師如来を本尊とする寺の建立に着手しましたが、完成しないうちに天武天皇が崩御したので、持統天皇がその遺志を継いで完成させました。当時は、金堂や東西に二つの塔があり、平城遷都に伴って寺は伽藍ともども西の京へ移築されたと言われていましたが、別々に造られたという説が有力です。それ以来、この寺は本薬師寺と呼ばれるようになりました。



本薬師寺跡南側には休耕水田を利用してホテイアオイや蓮が栽培されています。

2 藤原京朱雀大路跡



朱雀大路(すざくおおじ)は藤原宮の南正門である朱雀門から南方へ延びる大路で、発掘調査によって幅4メートル、深さ0.4メートルの南北大溝2条が検出され、溝から藤原宮跡と同時期の遺物が出土したこともあって、幅21メートルの大路の存在が確かめられました。

3 奈良文化財研究所都城発掘調査部 藤原宮跡資料室



「藤原宮跡資料室」には、奈良文化財研究所が藤原宮跡で発掘調査し出土した瓦や土器、木簡など、様々な貴重な資料を数多く展示し、藤原京の造営から都での暮らしの様子、平城京へ遷都された後の藤原京の様子を説明しています。

4 藤原宮大極殿跡



藤原宮跡は、藤原京の中心施設である宮殿などがあったところで、一辺約1kmの中に、大極殿や朝堂院、天皇の住まいである内裏などがあり、現在の皇居と国会議事堂、霞ヶ関の官庁街を合わせた性格を持っていました。大極殿は天皇が政治や儀式(ぎしき)をおこなう場で、まさに藤原宮の中心となる建物でした。礎石建ちで瓦葺の屋根に朱塗りの柱のその建物は、大きさ正面45m、奥行21m、高さ25mと、当時は日本最大の建物でした。

5 橿原市藤原京資料室



橿原市藤原京資料室では、藤原京の1,000分の1模型(約6m×7m)や、柱や瓦などの出土品、当時の柱を再現したものなどを展示しています。当時の藤原京の様子を再現したCGや人々の暮らしについて解説したアニメも上映しています。

6 藤原京西面大垣南門跡



藤原宮の周囲は大垣で四方を囲まれ、大垣の外側は幅5mの外濠、内側には内濠がめぐらされていました。その規模は、東西大垣間約927m、南北大垣間が約907mで各辺に3つずつ門が築かれていました。大垣は、2.7m間隔で柱を立てた掘立柱塼で、高さが5.5m、土壁の厚さ20cmで瓦葺きであったことがわかっています。ここには、西面大垣の一部と南門の遺構が復元されています。



藤原宮跡周辺には季節毎に美しい花が植えられ、春は菜の花、夏は黄花コスモス、蓮、秋は300万本のコスモスが咲き誇ります。

本殿はなく、天照大神が隠れた天岩窟といわれている4つの巨石がご神体です。境内には、毎年新しい竹が7本育つ代わりに、別の7本が枯れ死するという「7本竹の不思議」という伝説が伝わっています。

大和朝廷の外交政策や軍事で活躍した地方豪族・紀氏の氏寺。かつては藤原京左京の大寺院でした。しかし、都が平城京へ遷されたとき、紀寺も平城京へ移転し、その後は跡地が残るのみとなっています。

8月中旬から9月下旬にかけて、水草の一種ホテイアオイが咲きます。涼しげな薄紫の花は訪れる市民や観光客に親しまれています。

境内はかなり広く、客殿座敷に面して、香具山(かぐやま)を背景に美しい庭園があります。ご本尊の阿彌陀如来は蓮台と御足の間に紙一枚程度の隙間があることから「浮足如来」と称されています。